

同友しずおか 2021 10

「入ってよかった」「続けてよかった」「企業も地域もよくなった!」

VOL.515



私の逸品

特定非営利
活動法人 ポトラッチ

熱い想いから生まれた
「静岡産お茶漬けセット」



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

●社長はいつも孤独

●経営の成功体験しか聞けない

●目の前の仕事に追われる毎日

●指示待ち社員ばかり

●経営の悩みを相談する仲間ができた

●失敗談から勇気とヒントをもらえた

●将来の会社のビジョンができた

●自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0037 静岡県静岡市東区三浦1-1-1 FAX/054-253-7120 E-mail/doyukai@shizuoka.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくりまします

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくりまします

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

2025年ビジョンの実践

【第4回】

新連載「2025年ビジョンの実践」では、ビジョンプロジェクトメンバーが静岡同友会2025年ビジョンを自社の未来と重ね合わせ、いかに実践していくかをコラム形式で毎月掲載していきます。

変えるべきものを変え、
変えてはいけないものを変えない忍耐力を

どんな激変期であろうとも、柔軟に経営の舵取りをしていかなければ会社の存続は危ぶまれます。しかし、何でも変えていいというわけでもありません。ラインホールド・ニーバーの「祈り」のように、変えるべきものと変えてはいけないものを判断する英知を私たちは持たなければなりません。その判断に欠かせないのが、「聴く」ことだと思っています。

2025年ビジョン「企業づくり」で言う、関わる全ての人々が実感できる「成長」と「幸せ」とは何でしょうか。社員やその家族には、それぞれの成長があり、それぞれの幸せがあります。千差万別です。全く仕事とは関わりのないところに、成長と幸せを求めている者もいます。いくつかの方針を経営指針書に謳っても、全ての人々が実感できるものであるかどうかわかりません。それでも関わる人々が、「この会社で働いてよかった」「この会社と付き合っていてよかった」と感じてもらうために、まず、その人達の声を「聴く」ことから始めるのが私の実践です。改めて「聴く」ことは時に怖いことでもあり、勇気が必要なことでもあります。それでもそこから逃げずに向き合い、一人ひとりの考えを経営指針書に落とし込み実践することができれば、少しは2025年ビジョンに近づけるものと私は信じています。

増田 崇氏 (㈱リアス/県経営労働委員長・榛南支部)



熱い想いから生まれた 「静岡産お茶漬けセット」

特定非営利活動法人 ポトラッチ (榛南支部)

理事 加藤 健介氏



事業所の未来への想いを語る加藤氏 (奥側)

今月の表紙「私の逸品」で紹介するのは、ふじのくに福産品(※1)販路拡大事業の商品開発支援に応募して開発された商品「静岡産お茶漬けセット」です。この商品を開発した特定非営利活動法人ポトラッチの加藤健介氏は、大手金融機関から脱サラして、2018年に御前崎市で就労継続支援B型事業所を立ち上げました。金融機関に勤めていた際、営業で訪問した多くの会社で障がい者雇用の課題があったこと、また一般家庭においても働き場所や居場所を持たない障がい者がたくさんいることを知ったことが、事業所の設立に至った経緯だといいます。

(※1)：静岡県内の、障害のある人が働く障害福祉サービス事業所の製品である「授産品」の愛称

工賃向上のために努力

加藤氏は、独立した当初は他の就労継続支援事業所と同じく工場などに営業に出ていました。しかし安い単価でお願いされることも少なくなかったそうです。そこで工賃の向上のためB to Cの仕事に着手し、高いレベルの商品を製作・販売できるように努めたところ、利用者の方に「仕事を通して社会の役に立つ

ている」「任されている」という自覚が生まれ、楽しく仕事をしてくれるようになってきたそうです。「これも、地域・企業から応援していただいたからこそその成果」と加藤氏は語ります。

企業との協力のもと完成したお茶漬けは、利用者の方にティーバッグに詰めて封をしてもらい消費者のもとへ届きます。こうしてオリジナル商品を開発したことで利益率も見込める事業がスタートしつつあります。リーフ茶消費の手助けになり、静岡県下の特産品とも相性が良いこの商品。贈答用として一般顧客の購入はもちろん、お客様へのお土産用として、時短営業で苦しみ居酒屋・飲食店に購入してもらいたいという想いもあります。閉店時間を早めなければいけない代わりに締めの一品としてお家で楽しめるお茶漬けセットを渡すといったサービスが広まれば、さらなる需要見込みがある」と加藤氏は語ります。これまでは応援されることの方が多かった同社が、応援する側への

「自分たち発信でもやれることがあるはずだ」そんな思いから、ふじのくに福産品販路拡大事業に応募し「静岡産お茶漬けセット」を商品開発した同社。加藤氏は金融機関に在籍していた頃よりリーフ茶の消費減少を実感しており、何かお役に立てないか模索。そしてたどり着いたのが「お茶漬け」でした。静岡県の特産であるお茶を使用し、わさびや海産物などとも相性が良いお茶漬けを販売することで、静岡県のPRにつながるという考えもありました。家庭で手軽に本格的なお茶漬けが楽しめるこのセットはまさに

にThe Shizuokaの商品。しかし、初めての商品づくりは何をどこへ相談したら良いのか分からず、一つひとつ手探りで話していただきました。



お茶漬けの袋詰め作業

道を切り拓こうとしています。

「今後はうなぎやしらすなどの特産品を使い、具材を増やし、県内全域に本格的なお茶漬け商品を展開していく」と加藤氏。飲むリーフ茶から食べるリーフ茶へと、新たな文化の発展も期待しているといいます。金融機関で勤めていた時に若手起業家が目をキラキラさせながら事業について語る姿を見たからこそ決心した起業。そんな加藤氏も現在は同友会で熱い想いを語る起業家の一人です。

取材・記事：伊藤義康氏

(イトウシャヤディ(株)・榛南支部)

取材：河内崇文氏

(株)スマートブレイン・榛南支部)

特定非営利活動法人 ポトラッチ

〒437-1612 御前崎市池新田2465-28

TEL：0537-64-3885

設立 2018年

社員数 4名

入会年月 2018年8月

事業内容 就労継続支援B型事業所(社会人としてのマナー、内職を通じた仕事に対する訓練など障がい者の就労に向けた支援)



会員訪問記

ご遺族や故人に寄り添い、何でも相談できる葬儀社に

(株)天華葬祭

代表取締役 成田 みちよ氏 (沼津支部)



葬儀社としての想いを話していただいた成田氏 (右側)

感謝の気持ちを忘れずに

2000年に沼津市内の個人の葬儀社に中途入社し、従業員として葬儀全般の勉強をしながら働いていた成田氏。今でこそ女性が働

きやすい環境になりましたが、まだこの頃は女性の業界進出が無く、不当な嫌がらせを受けることも多い時代で、悔しい思いをしてきたと当時を振り返ります。従来の負

数年後、沼津市初の葬儀受注者(葬儀を受注・施行する担当者)として葬儀社に自身の居場所をつくるのが出来たといいます。しかしその後、勤めていた葬儀社の廃業が決定。辞める前に成田氏を指名する葬儀の仕事が入ったことが独立に悩んでいた同氏の背中を押し、2007年12月25日に臨済宗のお寺より名前を頂き創業したといいます。「仕入れ先には、前職に引き続きお付き合いしてくださり、今でも感謝の気持ちを忘れません」と成田氏は語ります。2009年3月に沼津市初の家族葬専門ホールを落成し、家族葬を中心に1日葬儀や火葬式など、新しい葬儀を提案し続けてきました。

経営者としての在り方を学ぶ

同友会のことを知ったのは、創業14期を迎えた頃でした。時代と共に葬儀業界もすっかり家族葬に特化した葬儀が中心になり、業界全体の先細りを感じ始めた時に、仕事の関係者より同友会のことを教えてもらい、ゲストで沼津支部例会に参加。グループディスカッションで真剣に話し合う様子を間近で体験し、強く衝撃を受けたそうです。過去、色々な経営者の勉強会に出席したり、会に属したこともあったそうですが、



葬儀会場の風景

同友会では自身の経営者としての在り方や今後の展望について学ぶことが多いと思い、入会を決めたそうです。同友会に入会してから経営指針に対する自身の考え方を改め、社員間での意思の疎通などを意識的に変化させ、共通の目標を明確にするように実践し始めたといいます。

寄り添う心を体現したい

社内で共通した目標を持つことで、ご遺族や故人に寄り添う心により体現する方法を模索したり、環境や地域に対する社会貢献も真剣に考えるようになったと同氏。同社では創業以来、稲盛和夫氏の「経営の原点12ヶ条」を経営の指針としています。まだまだ続くコロナ禍ですが、経営革新を取得した新規事業も同社の新しい強みとして最大限活用し、業界内の頭打ちに穴を開けたいと考えているそうです。「地域の人人々にとって『困り事があつたら天華葬祭に相談しよう』と気軽に何でも相談で

きる葬儀社であり続けたい」と話してくれました。

取材・記事：片野浩一氏
(南弥生製作所・沼津支部)



祭壇に飾られる色とりどりの花

(株)天華葬祭

〒410-0012 沼津市岡一色96-5

TEL：055-929-0343

URL：http://tengesousai.com/

創業 2007年12月

設立 2011年5月

社員数 5名

入会年月 2020年4月

事業内容 葬儀全般・仏壇仏具販売 (葬儀全般、墓地・墓石・葬儀保険の販売、海洋散骨、遺品整理、生花相談、ギフト販売)

会員訪問記

人の縁「人縁（じんえん）」で紡いだ
戸建て住宅の仕事

(株)オネストホーム
代表取締役 大畑真一氏（志太支部）



ご夫婦で力を合わせ経営する大畑真一氏（右側）

もともと飲食店を経営していた
大畑真一氏が様々な人との縁を紡
ぎながら今の住宅事業にたどり着

いた経緯と自社の今後について詳
しくお聞きしました。

飲食業から建設業へ

飲食業の経営者として同友会で学んでいた大畑氏は、結婚し家庭を築いたことをきっかけに、昼夜が逆転する飲食業からの転業を考えはじめました。そのころ建築士の資格を持つ方との縁があり、飲食業を営みながら建設業の経営を始めました。経理として加わった奥様も含め建設業は素人同然でしたが、大畑氏は飲食業の収入のみで動き始めた建設業を支えました。知り合いやお店のお客様のつてで下請けの仕事を回してもらったために営業に走り回る日々で、金融機関からお金を借りることはせず、飲食業から生じる自己資金のみで新しい会社を回していました。東日本大震災、現場監督の退社など度重なる問題に直面しながらも会社が窮地に陥らなかつたのは、大畑氏の口癖でもある「人縁」を大切にしてきたからでしょう。同友会の仲間に相談し、助けられた話をいくつも語って頂きました。

現場監督の入社とソラマドとの出会い

大畑氏は、現場監督採用のための求人票に「仕事も大事だけどプライベートも大切」と記したそうです。同友会で学び、結婚をきっかけに仕事を変える決断をした大畑氏の想いが入った求人票を見て大手建築会社勤務、家族を大切にしたいと転職を考えていた方が応募してきました。仕事への考え方がマッチした二人は意気投合し、その後の会社の基盤ができていき

今後の展望

ました。また同時期に、家族がくつろぎ楽しく暮らせる家づくりをしている岡山県の企業、(株)ライフロボと偶然出会い、大畑氏とコンセプトが合致したことから同社の営む「ソラマド」ネットワークに加わりました。ソラマドでは「空に向かって開いた大きな窓」がある開放的で自由な空間を基本に、ライフスタイルや家族の成長に合わせて自由にカスタマイズできる暮らしを提案しています。「これまでの家づくりが『どんな家に住みたいか』といった要望を聞く作業だったのに対し、ソラマドは『どんな暮らしをしたいか』を聞くことを大切にしている。そうすると間取りや外観の話を全くしなくても完成図は見えてくる」と楽しそうに語る大畑氏からは「人縁」を紡いでようやくたどり着いた仕事への愛着が滲み出ています。

様々な「人縁」のもと、現在5名体制で年間の新築目標も達成できようになった(株)オネストホームは、次の目標に向かって歩み始めています。「家を建てたらやりたいことは何？」大畑氏は施主さんに必ずそう聞くそうです。それを実現するための器がソラマドの家。そんなコンセプトでいよいよ、2021年11月にモデルハウスを



取材陣と大畑真一氏（中央）

(株)オネストホーム

〒426-0037 藤枝市青木2-18-3 青木ビル1-D

TEL：054-631-7766

URL：http://soramado-shizuoka.com/

設立 2010年3月

社員数 5名

入会年月 2008年7月

事業内容 注文住宅「ソラマド」
の設計・建設・施工

取材・記事：村松繁氏
(アイマーク(株)・志太支部)
取材：宮本浩氏
(大栄工業(株)・志太支部)



改装した事務所

中小企業憲章・中小企業振興基本条例学習会

「地域金融の未来と中小企業の関係」

～自社事業の見える化で

金融機関・支援機関と対話し、共通価値の創造へ

講師 森 俊彦氏

(一社) 日本金融人材育成協会・会長

9月28日(火)、財務省東海財務局静岡財務事務所の後援のもと、本学習会をZOOMで開催。講師に森俊彦氏をお招きし、講演頂きました。当日は金融、行政機関を含め、総勢100名を超える参加がありました。

静岡同友会が掲げた2025年ビジョン(地域づくりでは、企業と地域が手を取り合い、地域社会の発展を目指しています。ビジョンの原点は地域づくりと企業経営は切り離せないという点です。県・各市町に制定された中小企業振興基本条例には地域を構成する企業、行政、金融、関係機関の役割が明記されています。本学習会は企業と金融機関の役割に着目し開催しました。

冒頭、養威頼代表理事より主催者あいさつ、桑崎雅人副代表理事より学習会の主旨説明を行いました。

地域における金融機関の役割

冒頭、森氏は講演のキーワードを「①即実践、②現場に真実あり、③ローカルベンチマーク(以下ロカベン)と経営デザインシートはメモ帳として使う(共通言語)、④自らは何のために存在しているのか問い続けること」の4点にまとめました。

森俊彦氏

まず触れたのは

金融の役割

についてです。「資金の円滑な供給を担う金融機関。人の体に例えると血管が

機能を保つと周辺の組織は壊れます。金融機関の金融仲介機能の発揮が起点となり、地域経済の好循環のループが実現します。そして金融機関が中小企業の企業価値である営業キャッシュフローの持続的改善に取り組みことで、金融機関と企業との関係はゼロサムの関係ではなくプラスサムの関係に繋がっていきます。そのためには企業、金融、支援機関が連携し、価値の共創が欠かせません」

森氏が強調して伝えたことは、「①中小企業経営者の金融リテラシーの向上、②企業価値の見える化、③企業と金融機関の信頼関係の構築」です。金融行政方針の転換により、事業性評価に基づく本業支援へと金融支援の在り方が変わりました。「今、金融機関には経営者保証ガイドラインに基づく『育てる金融伴走型支援融資』が求められています。企業によっては必要運転資金も長期借入で融資を受けています。運転資金

信頼関係の構築と伴走型支援融資の実現が

企業と金融機関の健全性を保つ

は事業活動そのものであり、これでは財務状況を苦しくしてしまいます。正常運転資金を切り出し、短期継続融資にする。特に専用当座貸越は伴走型支援による事業性評価融資の効果である」と話します。「金融仲介機能が発揮されることで、企業の稼ぐ力の向上、金融機関の財務改善にも繋がります。結果、健全性が保たれます。このような関係を企業と金融機関で築くために必要なことは何か、それが平時から共通価値の創造に向け、共通言語を持つて対話し信頼関係を築くことです」。



書籍：地域金融の未来
著者：森俊彦氏

経営指針を共通言語に落とし込み

地域経済の好循環のループ実現へ

「その共通言語となるのがロカベンと経営デザインシートです。ロカベンは今現在の経営状態を把握するツールであるとともに、数値では見えない企業価値を可視化することができます。経営デザインシートは5年・10年先の自社の在り方を構想するための思考補助ツールであり、作成のポイントは今後からバックキャストして考えること」と言い、「この2つのツールは国が推進しており、金融・支援機関との継続的な関係構築に役立ちます。経営者は対話のために自社の価値を可視化し、積極的に金融・支援機関に発信することが重要になります」。これらの内容は同友会が推進する「経営指針に基づく経営」と非常に親和性が高く、書籍「経営指針成文化と実践の手引き」「企業変革支援プログラム」と重なる内容が多くあります。

最後に森氏からロカベンと経営デザインシートの活用事例を紹介。「中小企業憲章、振興基本条例が羅針盤となり、中小企業、金融機関、支援機関の総力を結集し、地域経済エコシステム経済的な協調関係の好循環のループを実現する国民運動へ発展させてほしい」と参加者へメッセージを伝えました。

講演後、質疑応答を実施し、今野英明県政

策委員長より謝辞を伝え、閉会しました。

経営指針を成文化し、ローカルベンチマーク・経営デザインシートへ落とし込むことで企業と金融・支援機関との共通言語に。そして共通言語をもとに対話することがより深い信頼関係を構築に繋がります。企業の発展と金融機関の健全性が保たれ、地域の活性化へ繋がります。本学習会は、経営指針の成文化と企業の発展、つまりは企業づくりが地域づくりに繋がっていくことを、参加いただいた行政や金融機関と「共通言語」として共有する機会となりました。

以下、参加者感想を掲載します。

《参加者感想》

「これまでの延長戦で考えるのではなく、未来から考えギャップを埋める」これは経営デザインシート作成のポイントです。ローカルベンチマークと合わせて、これから中小企業と支援機関との共通言語となるもので、それはまさに経営理念と経営指針でした。これまでの金融機関の数字重視の考えから、社長の想いや今後の計画等をみて伴走支援する考えへ変わろうとしています。私達も金融について勉強し、日頃から金融機関と対話し、自社の想いや強みを発信する重要性を再認識しました。「中小企業振興基本条例が羅針盤になって総力を結集し、地域経済の好循環を実現する」規模だけでなく企業の存在価値「みんなが飛んだり跳ねたりするのを支援、伴走する」心に残った言葉です。「中小企業を守りたい」と活躍されている森氏の熱いお話は、そんな心に残る言葉で溢れていました。私達からの感謝の言葉に感極まって涙された姿に一瞬驚き、それから嬉しくなりました。前へ進もう！と思いました。



松下 恵美子氏(三協紙業(株)・静岡支部)

全県経営フォーラム参加申込を受付中！

★現在、123名が参加表明★ ※10/1時点

e.doyuフォーラム特設掲示板より情報を公開中！

日時：11月19日（金）13：30開会～17：30閉会

フォーラムの魅力を毎週発信中！
全県経営フォーラムかわら版をご覧ください！

～e.doyuにフォーラム特設掲示板を開設～
フォーラムの情報を順次公開中！

毎週かわら版にてフォーラムの魅力を発信しています。ぜひe.doyuよりご覧ください！
また、記念講演講師からのメッセージをはじめ、各分科会のPR動画を順次公開します！



◆ フォーラム開催方法変更のご案内 ◆

9月フォーラム実行委員会、理事会にて全県経営フォーラムの開催方法を以下の通り変更致しました。

【変更前】

第1分科会・第4分科会・第6分科会
レイアップ御幸町ビル・ZOOMにて
参加を受付



【変更後】

全分科会の参加方法はZOOMのみ
※レイアップ御幸町ビルの
参加会場がなくなります。

県内から多くの会員が一同に会することによる皆様への感染リスクを抑えた上で、フォーラムを開催し、多くの学びを得られる機会にすべく、全分科会を完全オンライン開催に変更する運びとなりました。これまで、会内の活動もZOOMと会場の併用、またはZOOMのみで開催し、活動を止めずに推進してきました。全県経営フォーラムも時代の変化に適応した新しい形を実現していきます。フォーラム参加回答を「会場参加」でご回答頂いた方には大変申し訳ありませんがZOOM参加にて変更をお願いします。

実行委員はじめ、各分科会の報告者、設営に関わる皆様と共に、フォーラムを充実した学びの機会にできるよう準備を進めています。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

10月・11月

DOYU CALENDAR

10月16日(土)～11月15日(月)

10月 20日(水)	伊東例会 (19:00 ZOOM (予定)) 志太例会 (19:00 島田市東町自治会公会堂&ZOOM) 沼津例会・グループ長研修 (18:45 ZOOM)
21日(木)～ 22日(金)	中同協・障害者問題全国交流会from埼玉 (13:30 オンライン)
21日(木)	榛南例会 (19:00 ZOOM) 浜松例会 (19:00 クリエイト浜松&ZOOM) 富士例会 (19:00 ZOOM)
22日(金)	会員経営者が語る「イントロセミナー～同友会と私～」 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
25日(月)	三島例会 (19:00 ZOOM)
27日(水)	県共育委員会 若手社員フォローアップ研修 (9:20 男女共同参画センターあざれあ)

28日(木)	第18期経営指針を創る会 第9講 (19:00 ペガサート&ZOOM) 県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
11月 4日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
10日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア& ZOOM)
11日(木)	第18期経営指針を創る会 第10講 (19:00 ペガサート&ZOOM)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1054 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
すずき ゆか 鈴木 友蘭	(株)東海医療器械 医療機器・医療用品・福祉機器・介護用品等の卸販売 (医療器械販売、福祉用具販売・レンタル、アスクル事業)	沼津	鈴木 憲介
なかむら まさこ 中村 雅子	(株)Office REVO コンサルタント (組織開発、人材戦略、業務改善、デジタルシフトのコンサルティング)	富士宮	簗 威頼

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyuからのご確認をお願い致します。



ZOOMによる理念発表会

今後は11月の経営指針書の成文化に向け、数値計画・事業戦略の作成を進めていきます。

今発表した経営理念は各受講生が、自社の歴史や内部・外部環境の分析をもとに、自社の在り方を自身に問いかけ続け、受講生・スタッフとともに意見を交わしてまとめ上げたものです。理念を発表した受講生からは「この4ヶ月は自社を振り返る大きなきっかけになった」「業界の先細りが悩みの種だったが、新たな可能性を模索する方向に考え方が変わった」など感想がありました。発表会終了後にはオンラインによる交流会を実施し、受講生・スタッフの交流を深めました。

6月より開講した第18期経営指針を創る会。今回は富士宮・静岡・榛南・中遠支部より10名の受講生が参加しています。全11講の折り返しとなる本講では、受講生より経営理念の発表を行いました。緊急事態宣言下ということもあり、会場に集まることは叶いませんでしたが、「厳しい状況だからこそ経営の柱となる経営理念の確立は重要」という山本健二創る会会長、増田崇経営労働委員長の思いのもと、完全オンラインで開催しました。

第18期経営指針を創る会
経営者の想いを言葉に
経営理念発表会を開催

9月25日(土) 参加: 24名